

多摩デポ通信 第11号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2009年7月7日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一-三十一-一八

HP / <http://www.tamadepo.org/>

E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

去る5月31日(日)、国分寺労働会館で第二回総会を開催しました。正会員101名と3団体(賛助会員33名2団体)のうち出席者28名、委任状提出者43名で定足数53名を大きく上回っての成立となりました。

昨年の第一回総会時の会員数が8名3団体だったことを振り返ると着実に歩みを進めていると実感されます。冒頭、座間理事長から、「昨年5月に法人化を遂げ、法人として2回目の総会が開催できたことを

NPO 法人「多摩デポ」

第2回総会開催!

喜びたい。まだ新年度に予定していた自治体からの具体的な仕事を請け負える状況には至っていないが、保存シール貼付や里親探し事業などの具体的な活動実績を一つ一つ積み重ねて、共同保存図書館実現の足がかりを作っている」という挨拶で開始された議案審議はいくつかの意見が出たものの着々と進み、いずれも賛成多数で可決されました。

さて、事務局は、法人として初めての総会ということで、法務局への提出書類の形式を整えることに神経を使い、会員のみな

さんに「わかり易い討議資料」を用意するところまで準備ができなかったですが、やはりそのことに意見が集中しました。新年度はいただいたご意見に留意して活動をすすめたいと思います。総会の詳細については、今号に折り込んだ「議事録」をお読みください。なお、法務局への提出書類としての議事録は、質問・意見等を除いた淡々とした書式で別途作成しています。

総会に引き続き、前滋賀県立図書館長で、現在は滋賀県の審議員をなさっている梅澤幸平氏の講演「図書館の役割と資料保存」を行い、非会員を含め、37名の参加がありました。(講演内容は、次ページ参照) 総会・講演会終了後の懇親会にも24名の参加があり、新年度の活動計画についての想いなどを語り合っただけで、交流を深めました。

「多摩デポブックレット①」売れ行き好調!

予告したブックレット第1号ができあがり総会参加者に当日配布しました。総会に欠席の会員には、この「通信11号」と一緒に無料で一冊お届けしています。

「共同保存図書館・多摩」の目指すところをすっきり示された安江明夫氏の講演をひとりでも多くの方に知っていただき、会が多くの賛同を得られるよう、会員の皆様のご協力をお願いします。ぜひお近くの方に購読を薦めて下さい。

『出版ニュース』でも紹介していただき、発売のけやき出版にも順調に注文が入っています。会員が事務所または理事・事務局員に申し込まれた場合、会員価格で購入できます。定価は630円(うち税30円)ですが、会員価格520円とします(非会員には600円)。郵送の場合、3冊まで80円、4~6冊まで160円、7~10冊まで340円の送料をご負担ください。11冊以上購入される場合の送料は無料です。FAX、メールでのお申込みをお待ちしています。

梅澤幸平氏

総会記念講演

「思いがないと 残らない」

定期総会のあと、前滋賀県立図書館館長の梅沢幸平氏に「図書館の役割と資料保存」と題し、記念講演をお願いした。

梅澤氏は、北海道立図書館の勤務を経て、1987年に滋賀県甲西町立図書館（現湖南市）の開設準備担当、89年同図書館長に就任、98年から9年間は滋賀県立図書館館長、そして定年退職後の07年4月からは、滋賀県審議員（古文書・文献・公立図書館指導担当）として活躍されている。

講演は、滋賀県立図書館内にある資料保存センターの話から始まり、その後、

現在の仕事である県政資料室のことを紹介された。

次に、関心を寄せてこられた、函館市立図書館を作った岡田健蔵氏の資料保存に対する思いや、近江八幡市立図書館に残っている「ヴォーリズと近江兄弟社図書館」に関する資料の話を通して、資料を残すこと、資料が残っていることの価値について語られた。

図書館の役割と資料保存 の講演をお聞きして

町田市立図書館

川上武利

先日、地域資料の研究グループの方とお話しする機会がありました。その中で、「今この時期にきちんとした資料保存をしなければ未来永劫、貴重な資料は消失してしまう」と強くおっしゃっていました。この話を

お聞きしたとき、講演会で梅澤さんが言われていた「思いがなければ資料は残らない」という言葉を強く思い出しました。

講演会では、滋賀県立図書館の沿革、資料保存センター機能等を通じ県立図書館の資料保存についての理念をお聞きいたしました。さらに、資料保存から教えられる温故知新として、県政資料室の誕生や「消えた年金」「薬害裁判」「黒沢明vsハリウッド」等資料保存が果たした興味深い内容の話がありました。

県立図書館と市立図書館では資料保存の量は違うものの、資料に対する思いや目的は同じだと思います。

私の職場では、限られたスペースの中で何を残し、何を廃棄していくか毎日迷いながら仕事をしています。お話を聞きまして、自分たちが今やっていることに

少し自信と勇気を与えられた気がします。

そのほかに「岡田健蔵の函館図書館」「ヴォーリズと近江兄弟社図書館」「JLA 滋賀県支部の取り組み」等貴重な内容のお話をお聞きいただきました。この中で特に印象的だったのは「公がやっているから残るといふのは錯覚」ということでした。まさに「共同保存図書館・多摩」の会員の心に通じるものだと思います。

今回、初めて会に参加させていただきましたが大変有意義な内容でした。



図書館の役割と資料保存」を聞いて

藤沢市教育委員会

細井守

講演の前半は、県単位の共同保存では先駆例である滋賀県立図書館・資料保存センターについて。滋賀県は1980年4月に新館を建設すると共に、当時図書館界で活躍していた日野市立図書館長前川恒雄氏を館長に招聘。その改革路線が保存センターの実現につながっていることを知った。

保存センターの限られたスペースの中で本を残していくためには、県と市町村図書館との合意が必要で、

県が一方的にやり方を決めつけてしまうのでは良好な関係は得られない。この事業も普段からの県職員と市町村職員とのコミュニケーションがなければ、上手く

できなかつたのではないかと

の話であった。

後半の話も、「本(資料)を残す」という話で、ひとつ目は氏が居られる県政史料室について。滋賀県は「文書館のない県の一つ」という認識でいたが、2008年6月にオープンしたという県政史料室は、十分に文書館の機能を果たしている。是非とも訪れてみたい。

氏は、公文書には歴史的・文化的な価値もあるが、いわゆる「文化財」という観点では残すべきリアリティーが乏しい。情報公開にもつながるかたちの流れの中で、継続的に残していくべきではないかとの見解を示された。

函館市立図書館と近江兄弟社図書館の話は、強い意志と、それに共鳴した大勢の人がいたことよって本(資料)が残った例。

最後に、思いがなければ

本(資料)は残らない。公がやっているから残ると言うことではない。「多摩デポ」が手本になって、いろいろなかたちで本(資料)を残す活動が展開されることを望む、として話を締めくくられた。非常に示唆に富んだ講演であった。

第五回多摩デポ講座

大倉山記念館

大倉精神文化研究所

附属図書館 見学会

8月15日(土)

午後2時～4時30分

集合：午後1時30分

東急東横線大倉山駅

改札

定員：30人先着順

参加費：無料

書庫訪問④

調布市立図書館

映画資料室

調布市立中央図書館へ「里親探し」成立資料をお届けした折に書庫見学をさせていただいた。

調布立中央図書館は1995年10月に現在地に移転した。京王線調布駅から徒歩数分の「文化会館たぐり」の4～7階と地下1階。余裕があるはずだった収蔵能力25万冊の地下書庫も既に満杯。「本は横に置かないように！」とはいふものの「現実としては、置いてあるところも…。悲しいですよ」といわれるように地下書庫は一杯。

さて、市内に大映東京撮影所(現在では、角川大映撮影所)や日活撮影所、それに関連した事業所が多数ある調布市立図書館の個性

あるコレクションは5階の参考図書室に隣接した「映画資料室」。2008年度末の映画資料所蔵冊数は、2万2915冊ということだが、この内、約4000冊が開架室に、壁を隔てた閉架書架に映画関連雑誌のバックナンバーなどが置いてある。ここに入りきらない資料は、地下書庫に収蔵。



その地下書庫には、主に大映や日活の作品を中心に、映画作品原作小説、撮影台本、ポスター、宣伝用パンフレット等があり、必要に応じて保存用の中性紙容器を使用して収納されている。

書庫の一角には作業場所が確保されており、資料は日々増加中。



調布市立図書館が収集した資料の内、映画資料に関しては、収集後数年を経たところで「館内閲覧資料」に指定。複本がない場合は、中央図書館や市内分館で館内閲覧していただいている。ここは〈映画・映像図書館〉ではないというものの、映画ファンや映画関係の仕事をしている方の利用が多いのもナットク。さて、この資料群も調布市立図書館にとつては、地域資料の一部。調布在住の方の出版物はもちろんのこ

と、「調布市関係新聞記事」のスクラップの累積や昔の電話帳・住宅地図・市内の小中学校の発行物など、「集め始めると次々集まってくる」ということで、せっせと利用に備えた整理を進めているそう。専門職制度に支えられてこそこういった資料の集積ができるのではないだろうか。



これら地域資料を含め、市内計121万冊の蔵書は、中央図書館以外に佐須分館と中央高速高架下の2箇所を併せて25万冊分の保存庫を持って、機能的な収蔵に努めている。

★会の現勢

09年6月30日現在

●会員

(個人会員103名)
(団体会員3団体)

●賛助会員

(個人39名)
(団体2団体)

*6月末現在会費納入済

正会員 68名、3団体
賛助会員 24名、2団体

会費の納入について、引き続きよろしく願います。

※年会費

正会員(個人・団体) 五千円

・賛助会員 一口二千円
(個人一口以上団体五口以上)